

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.39をお届けいたします。

facebook



FMD
OWNER'S CLUB



1月のTOPICS

■ 認知機能と FMD の関連について

内閣府の報告によりますと、認知症患者数は年々増加し2025年には65歳以上の認知症患者数が約700万人に増加し、5人に1人になると見込まれています。そこで今回は、認知症患者の内皮機能について興味深い報告がございましたので、ご紹介いたします。

アルツハイマー型認知症患者(AD)27名、血管性認知症患者(VaD)23名、対照26名を対象に、一般的な認知機能をMini-Mental State Examination(MMSE)を用いて評価し、血管機能の評価としてFMD、CAVI、ABI、頸動脈IMTの測定を行った。

なお患者特定のために、頭蓋内CTまたはMRIによって認知症他の潜在的要因を除外し、診断時の血液スクリーニング検査にて、代謝原因による認知障害患者を除外した。また対照群は、神経学的機能不全、脳血管疾患、心血管疾患の既往がない者とした。

AD群とVaD群のMMSEスコアは、対照群と比較し有意に低下していた(共に $p < 0.001$)。

FMDは、AD群 $3.16 \pm 2.28\%$ 、VaD群 $2.62 \pm 2.07\%$ 、対照群 $5.94 \pm 2.49\%$ と、AD群とVaD群は対照群と比較し有意に低下していた(共に $p < 0.001$)。しかしCAVI、ABI、IMTは、3群間において有意差は認められなかった。

血管機能検査の結果でFMDのみが認知症において有意な低下が認められたため、FMDとMMSEとの関連を分析したところ、全サンプル(AD、VaDおよび対照を含む $n=76$)におけるMMSEスコアとFMDとの間に正の相関が認められた($p < 0.001$)。

結論として、内皮機能不全は、AD病因において重要な役割を果たしているようであり、FMDは、早期段階アテローム性動脈硬化および/または認知低下を検出するための他のサロゲートマーカーよりも敏感であり得る。この研究結果は、FMDが認知障害患者で低下することを示唆しており、FMDの改善を目的とした治療が患者の予後を改善し得るかについて、更なる研究が必要であるとしています。

引用元：Am J Alzheimers Dis Other Demen. 2016 Aug;31(5):437-42.

■ 2月には下記の学会にてハンズオンセミナーを実施いたします

日本動脈硬化学会 第19回動脈硬化教育フォーラム共催 第21回診断技術向上セミナー(血管診療技師認定機構認定)

会 期：2月3日(日) 9:00-17:00

会 場：電気ビル本館(福岡県福岡市)

地下2階 本館カンファレンス 大会議室・中会議室